

美術科部会

研究主題 形や色，材料などの特徴を感じ取り，
イメージを豊かにもって造形活動に取り組む生徒の育成
～多様な発想や構想を引き出す魅力ある題材構想の工夫～

1 主題について

風景や作品を見た瞬間に「この木の葉は手に見える」，「どこか懐かしさを感じる」など，対象をイメージで直感的に捉えることもある。必ずしもイメージとして捉えた根拠が明確でなくても，生み出されたイメージは大切に，後からその根拠を確認することで自分らしい見方が育っていく。対象のイメージを捉える能力を育成し，表現の能力を高めたいと考え，本テーマを設定した。

2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月11日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	10月29日	第2回総合研究会(第一中学校) 授業研究会・各校の実践紹介

3 研究内容

(1) 授業研究

- ・期 日 平成25年10月29日(火)
- ・会 場 第一中学校
- ・題材名 1年「季節のスケッチ」
- ・授業者 佐々木 亜希子

① 授業者から

- ・紅葉の美しさを表現するため，画材を透明水彩にし使い方を練習した。題材は3時間設定で，絵の具の使い方の練習，制作，鑑賞と盛りだくさんだったため，時間不足になった。
- ・「重色」「にじみ」「ぼかし」「点描」「ドライブラシ」の五つの技法を学習させたところ，制作に生かしている姿が見られた。
- ・準備と後片付けは時間外で行うことで，本時の制作の時間が確保されたが，時間配分は検討の余地が残った。
- ・技能の善し悪しだけでは，評価したくない。
「色が徐々に変わっている葉っぱ」「虫食いだらけの葉っぱ」「軽くてあたたかい葉っぱ」などのようにテーマがあると，どれだけテーマに迫れたかという点で評価ができる。

② 協議

- ・生徒たちは，気に入った葉を選んでスケッチした。これを教師が「運命の出会い」という言葉で表現していたのがおもしろい。感性を育てるのは美術科だと再認識した。校庭に出て自ら葉を見つける体験も，イメージをもたせるのには有効だった。
- ・本時のねらいは，「絵の具を工夫して使いながらスケッチする」ことであったが，前段階の鉛筆スケッチに時間を取られて，彩色の時間が少なかった生徒が見受けられた。授業を



【教師が撮った紅葉の写真を見て，
自然の美しさを再発見する生徒たち】

通して、生徒たちに身に付けさせたい力は何なのか。技法なのか、イメージ表現なのかを明確にしておく必要があった。本時では、鉛筆スケッチはもっとおおざっぱに行わせて、絵の具によるスケッチに時間をかけるとよかったと思う。

- ・完成した一人一人の葉を模造紙の木に貼ることで、1年生全員の共同制作になるのがおもしろい。色の学習で作られる「私色」も、葉の形や鳥の形、蝶の形にすると、より生徒たちの関心を引き付ける題材になる。

(2) テーマ研究

- ・各校、形を捉える学習として鉛筆スケッチを実践している。絵が苦手な生徒でも描けるよう、明暗の段階を捉えさせてから立体を表現させたり、モチーフ一つ一つに細かなスケッチの手順を示したりなど、工夫していることが分かった。
- ・各校、色に関心をもたせるため、色の学習を実践している。カラーボトルづくりを通して色相環の学習をしたり、学習カードを工夫して色から受ける感情などを学習していることが分かった。
- ・東北造形教育研究会青森大会の授業参観の報告があり、イメージをどのように作品で表現したか、その過程を知ることができた。



【イメージを透明水彩絵の具で表現】

(3) 指導助言（嘉藤 貴子 指導主事）

- ・美術室は掲示物や用具が整然としていて、生徒は落ち着いて学習に取り組んでいた。また、日々の授業の積み重ねにより、意欲が高いと感じた。また、教師が準備した紅葉の写真を通して、生徒は身近な美しさに気付くことができた。
- ・〔共通事項〕を踏まえた題材設定がなされており、前時に行った技法練習も単なる練習でなくイメージを伴ったものであった。
- ・主題をもたせることについて捉えがやや曖昧であり、本題材であれば葉っぱそのものが鑑賞の対象であり、そこから生徒一人一人が発見した美しさをそのものも主題となり得る。
- ・発想の後の構想を深める手立てを工夫し、技法練習を生かしてイメージと表現のかかわりを考えさせることもできた。
- ・作品を紹介する際には、作品と一緒に選んだ葉も見せたい。「なぜ、そう感じたの？」と問いかけて、見方や感じ方を深めさせたい。
- ・葉を模造紙に描いた木に貼って共同作品とする際には、生徒たち自身に葉を貼る位置や色の組み合わせなどを考えさせるなどして、鑑賞の能力が高まるような活動にしてほしい。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・主題を生み出すとは、生徒自らが強く表したいことを心の中に思い描くことである。描く対象を自分で選ぶことにより、主題を生み出しやすくなることを学んだ。
- ・他校の学習掲示や作品、スケッチの指導方法を知ることができて、今後の実践の参考とすることができた。

(2) 課題

- ・題材を通して、生徒にどんな力を付けさせたいのか（イメージによる表現なのか、写実的な表現なのか）を明確にすることが大切である。
- ・準備や後片付けの効率化を図り、生徒がじっくりと制作できる時間を確保したい。